

# 開院20年の節目に選んだ「妥協のない椅子」が、待合室の質を変えた

歯科医院名医療法人社団  
智啓会 とも歯科医院  
(兵庫県神戸市)  
院長 **坂口 智計**



長年連れ添った長椅子からの卒業と、新たな課題

開院して20年。これまで多くの方を迎え入れてきた待合室の長椅子も、月日と共に傷みが目立つようになってきました。リニューアルを検討する中で私が重視したのは、単なる新調ではなく、「**これからの20年、患者様にどれだけ付加価値を提供できるか**」という点でした。

そんな時、デンタルショーの会場で目に飛び込んできたのが、この「**バッグインチェア**」でした。



BAG-IN CHAIR(バッグインチェア)

「高価」であること以上の納得感

正直に申し上げます、一脚の価格としては決して安くはありません。むしろ、待合の椅子としては「滅茶苦茶高い」部類に入るでしょう。しかし、実際に製品を前にし、細部まで計算された設計と質感を目の当たりにした時、その価格は「**徹底したユーザー目線への対価**」だと確信しました。

私が導入を即決した理由は、主に3つの「ユーザー目線」の解決にあります。

**「荷物置き場」という永遠の課題の解消：** 歯科医院では、大きな荷物を持った患者様も多くいらっしゃいます。従来の「カゴ」を足元に置くスタイルは、清掃が煩雑になり、見た目にも雑然とします。背もたれに収納を一体化させるという発想は、まさに目から鱗でした。

**「床に置きたくない」心理への配慮：** 「自分なら大切なバッグを床には置きたくない」。その当たり前の感覚に寄り添えるかどうか、医療機関としてのホスピタリティの差になります。

**空間の質と安全性の両立：** 長椅子から独立した5脚のチェアに変えることで、患者様同士のパーソナルスペースを確保できました。荷物が通路にはみ出さないため、足元の安全性も格段に向上しています。

20年目の決断が生んだ、新しい待合室の風景

導入後、待合室の雰囲気は一変しました。木製フレームの温かみと、荷物がスッキリと収まる機能美は、患者様からも「大切にされている感じがする」と好評です。

「良いものは、高い」。しかし、それに見合うだけの機能と、それによってもたらされる**「患者様の安心感」**を考えれば、これほどコストパフォーマンスの良い投資はありませんでした。この椅子は、**当院のこれからの20年を支える大切なパートナー**です。



待合室の雰囲気①



待合室の雰囲気②